

バイオテロに使用される可能性のある病原体等の新規検出法の確立，
及び細胞培養痘そうワクチンの有効性，安全性に関する研究

分担報告書

各医療機関のバイオテロ対策を支援するための方策

所 属 東京医科大学微生物学分野 教授
研究分担者 松本哲哉

研究要旨：国際情勢の最近の変化によって、テロの脅威はさらに深刻化してきている。2020 年には日本でもオリンピックが予定されており、さらにテロのリスクが高まるため、対策の充実は不可欠である。医療機関は NBC テロの中でもバイオテロ対策への対応が重視されるが、現時点では準備が十分になされたとは言えない。その背景には医療機関向けのバイオテロ対策に関連する情報が限られているのも一因と考えられる。そこで今年度、本研究では国内の医療機関向けにバイオテロを疑う時シートを作成することを主な目的としている。本研究班の分担研究員である鯉淵智彦講師（東京大学医科学研究所）らとともに検討し、内容を分担してバイオテロを疑う時シートを作成した。

研究協力者
鯉淵智彦・東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科・講師
菊地正・東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科・助教

テロの被害を受けた患者に対する扱いについては、倫理面での配慮を行いながら執筆を行った。

A. 研究目的

近年、世界の政情が不安定となりテロのリスクが高まっている。海外では各地でテロが起こっており、日本でも伊勢志摩サミットやオリンピックなどテロのターゲットとなりやすい行事が予定されていることから、テロに対する対策を十分に行っておく必要がある。ただし一般的にテロの中でもバイオテロに対する関心はやや低い傾向にあるため、その対策は遅れがちであると考えられる。そこで、本研究においては、各医療機関が今後、バイオテロに対する準備を行う上で必要なバイオテロを疑う時シートを作成することを目的にしている。

B. 研究方法

現在の医療機関が置かれた状況を考慮して、より実践的で効率的な内容にすることを目標に、バイオテロを疑う時シートを作成し、治療と感染対策に関する部分を分担して執筆した。

【倫理面への配慮】

バイオテロを疑う時シートに患者等の個人情報等を扱う内容は含まれていない。また、バイオ

C. 研究結果

本研究班の分担研究者でもある鯉淵智彦先生（東京大学医科学研究所）らと協力して、現在の医療機関が置かれた状況を考慮した上で、より実践的で効率的な内容にすることを目指して、バイオテロを疑う時シートの治療と感染対策に関する案を作成した。

バイオテロを疑う時シートの項目は、バイオテロについて、バイオテロに対する感染対策、代表的なバイオテロ疾患、代表的なバイオテロ関連疾患の治療、各種ホームページ・問い合わせ、となっており、主要な疾患を取り上げながら図表を提示し、一目で項目ごとに全体像が把握できるよう工夫した。

なお、バイオテロを疑う時シートの印刷物は全国の病院（約 990 施設）に郵送・配布した。

D. 考察

バイオテロを疑う時シートは全国の病院、約 990 施設に配布しており、非常時に活用してもらおうと同時に、バイオテロ対策の啓発にも有用と考えている。ただし実際に配布できた医療機関は全病院の 1 割を超える程度と推定されるため、今後は印刷物に加えて、PDF としてダウンロード可能にできないか検討する必要がある

と思われる。

現在、国内でもテロを警戒する意識は少しずつ高まっているが、バイオテロに対する関心は高いとは言えず、医療機関においてもその対策はほとんどなされていないのが現状である。しかも、バイオテロ発生時は病原体が確定できず、さまざまな状況を広く想定しながら対応せざるを得ない。そこで、必要最小限かつ有効な対処法を提示できるよう、今回作成したバイオテロを疑う時シートを活用していただく必要があると思われる。

E. 結論

各医療機関がバイオテロ対策を実施する上での参考となるバイオテロを疑う時シートを作成した。今後、さらに実際の医療現場で活用できる内容にできるようブラッシュアップを行っていく必要がある。

F. 健康危険情報 特記事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Fujikura Y, Yuki A, Hamamoto T, Ichimura S, Kawana A, Ohkusu K, Matsumoto T. Evaluation and validity of a polymerase chain reaction-based open reading frame typing method to dissect the molecular epidemiology for *Acinetobacter baumannii* in an epidemiologic study of a hospital

outbreak. Am J Infect Control. 2016 Nov 1;44(11):e275-e278.

2) Yonetani S, Ohnishi H, Ohkusu K, Matsumoto T, Watanabe T. Direct identification of microorganisms from positive blood cultures by MALDI-TOF MS using an in-house saponin method. Int J Infect Dis. 2016 52:37-42.

3) Miyazaki H, Shibuya R, Midorikawa N, Chang B, Ohnishi M, Matsumoto T. Serotype distribution and antimicrobial susceptibility of *Streptococcus pneumoniae* strains isolated in Japan after introduction of the routine immunization program. J Infect Chemother. 2017 Feb 1. [Epub ahead of print]

2. 学会発表

1) I. Nakamura, T. Matsumoto, Improving Hand Hygiene Behavior by Scenario Based Simulation, ASM Microbe 2016 (Boston) June 16-20, 2016

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし